

●新庁舎建設があるそうですが、多額の借金があるのに建設しても大丈夫なのか。私は新庁舎よりも学校問題の方が大事であると思う。(50代男性)

●まちが発展してほしい。買い物とか、よそのまちに行くのが大変。行方市には何も無い。娯楽(例えば本屋など)が必要かな。(20代男性)

●みんなが集まる楽しい市になってほしい。また、若い人たちが誇れるような市であって欲しい。(30代女性)

●行方市はいい市だと思う。これからもイベントなどをやって、どんどん市を盛り上げていきたい。(40代男性)

●環境対策について、行方市の土砂採集はほとんど県の条例許可で行っている。県の条例ではなく、市の条例の許可がなければ出来ないようにしなければ、行方市の環境問題は守れないと思う。(50代男性)

●子育て広場や教室などやっていて、子育てについてはよくなったと思う。今後、小学校の統廃合が気になる。スクールバスなどがあったとしても、子供が小学校に入る頃は働いていると思うので、早めに分かるようにしてほしい。(20代女性)

●北浦では農産物は活かされていくけど、観光の面が何もない。『北浦』という水辺を活かした事業、産業をしてほしい。『北浦』がせっかくなからには、もっといいところを活かして、人間が豊かに利用できるようにしてほしい。(50代女性)

ちょっとひと言!!

市民の



広報委員が、市民の皆さんに、行方市に寄せる思いをひと言インタビューしました。

●子供たちが楽しく過ごせるようなイベントを企画してほしい。それと、子供を遊ばせるのに、霞ヶ浦ふれあいランドはちよつとよい施設。例えば、「雨の日は子育て中の親子は半額で入場できる」などの何らかのサービスがあるところに行きやすいし、入場者も増えるのでは。(30代女性)

●若い人たちが明るく生き生きと活気づくような市になってほしい。これはみんなでもやることですけど、行方市にはこれといったアピールするものがない。例えば農業であれば、行方市ではさつまいもをこれだけ作っているのに、さつまいもの知名度は川越の方があつ。特産物など「行方市といえば○○!!」とすぐに思い浮かぶようなアピールをしていきたい。(20代男性)

●後期高齢者医療制度について、私たち若い者には関係ないと思うが、関連があるならば分かりやすく説明してほしい。(40代男性)

●私たちが子供の頃は、夏には七夕祭りや盆踊りがあり、子供の頃の素敵な思い出がありました。現在はお祭り等でも子供たちの参加人数が減少している。行方市としては、子供たちのふるさとづくりには、今後、どのような取り組みをしていくのでしょうか。(30代男性)

議会では、議会や市に対する要望、意見、あるいは「議会だより」を読んだの感想などをお待ちしています。住所・氏名・電話番号を明記の上、議会事務局まで。

みんなで傍聴しましょう!! 次の定例会は9月9日(火) 予定です。

主な内容は、平成19年度の決算審査です。

編集後記



「人口減少社会」深刻な少子高齢化社会に入り、新たな価値を創造する転換期とも言える現代、私たち議会人として今こそ行方市民に対して、明確なる羅針盤を示し、市民とともに歩む行方市として、常に情報開示と市民の皆様の声を市政に反映できるように努力していく所存であります。

また、定例会での一般質問は、1議員90分間の持ち時間の中で、市政全般にわたる重要課題について、執行部との一問一答方式による真剣勝負のやり取りが鮮明に映し出され、忙しい時間を割いても傍聴されるに値する内容であると確信いたしております。そこには、行方市の現実と未来があります。市民の皆様と明日の行方市を共に考え、共に行動していきたいと決意しています。どうか是非、足をお運びください。お待ちしております。(高橋正信)

広報委員会

委員長 宮内 正
副委員長 高木 正
委員 松兼 幸蔵 岡田 晴雄
高橋 正信 横田 太一